



<3月号>

# 朝三中だより

朝霞市立朝霞第三中学校  
令和5年3月1日発行

〒351-0023

朝霞市溝沼 1043-1

T E L 048 (464) 7575

F A X 048 (467) 4742

<目指す学校像> 一人一人が輝き 感動と笑顔あふれる学校

## 背中を押す言葉

校長 杉山 巖

早いもので、梅の花も咲き、次は桜が咲くのを待つばかりの3月、卒業式・修了式を迎える月となりました。

この時期は、希望と不安が入り交じる複雑な時期ではないでしょうか。新しい学年、新しい学校、新しい仕事、新しい人々との出会い、この先に広がる新しいステージへの妙な気持ちの高ぶりと、胸を締め付ける緊張感の中で時間だけは、刻一刻と過ぎていき、あっという間に4月を迎えることと思います。

私が、この時期、つい口ずさむフレーズに「冬来たりなば春遠からじ」というものがあります。私の中学3年の時の最後の学年だよりに担任の先生が書いたメッセージの中の一節です。

「つらい冬の時期が来ているのなら、暖かい春はもうすぐ来るはずだ、必ず春はやってくる」と、自分ではそんなふうに捉えていました。

調べてみると、この詩は、イギリスの詩人シェリーの「西風に寄せる歌」の一節で、「今は不幸な状況であっても、じっと耐え忍んでいれば、いずれ幸せが巡ってくる」という例えだそうで、概ね思っていたことは合っていたようです。

もちろん今頃の季節の詩なので、この時期に思い起こすことが多いのですが、夏であっても、いろいろなことが煮詰まってしまうと進まないとき、「厳しい時期が過ぎれば、あとは光が見えてくるはずだ」と、つい、「冬来たりなば春遠からじ」とこの言葉が口に出るときがあります。

皆さんには、そんな言葉はありますか。前に進むための言葉やメッセージ、映像など、皆さんを勇気づけてくれるものはありますか。

それは、新聞記事の話やテレビのニュースの中の話であったり、好きなタレントのコンサートの言葉であったりするかもしれません。あるいは、自分が尊敬しているスポーツ選手の言葉に感動し、勇気づけられた人もいるかもしれません。また、身近なところでは、先生方が出す学級通信や学年だよりの中の皆さんに送ったメッセージの場合もあるかもしれません。

生きていく中では、休息や振り返るために立ち止まる必要がありますが、勢いをつけて進まなければならないときもあります。そんなとき、皆さんを勇気づけてくれる言葉があると、背中を押してくれるアイテムがあるとありがたいものです。そして、皆さんを勇気づけてくれる言葉はきっと身近にもあるはず、あるいはあったはずです。

1年を締めくくる時期に入りいろいろ片付けをする中で、この1年の間にもらった通信等をもう一度見返して見てください。もしかしたら、特に3年生は、「〇〇たより」が一生の宝物になるかもしれません。

そして見つけた言葉を、今の緊張や不安を振り払って前に進む原動力とし、新しいステージへと進んでいってください。皆さんの「春」を期待しています。

ところで、新型コロナウイルスに関しては、特段の事情がなければ、5月8日からその扱いを5類感染症に位置付けることになりました。引き続き「三つの密」の回避、「人と人との距離の確保」、「手洗い等の手指衛生」、「換気」等の励行など基本的な感染症対策は行ってまいります。マスクの着用については、3月13日から個人の判断を基本とすると言われました。ただし学校については、その適用は4月1日以降となっています。

また『卒業式』については特別とし、生徒、教職員はマスクを外すことを基本とする中で着用に関しては個人の判断にゆだねることとなりました。ただし、保護者の皆様については、各家庭2名までの出席を可能とするために、会場の広さを考慮し、マスクを着用とすることで座席間はふれあわない程度まで狭めさせていただきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。